



主な内容

- 巻頭言——薬学部長就任のご挨拶
病院長就任のご挨拶
- 新入職員研修を受けて——新入職員の声 ～研修を通じて学んだこと～
平成30年度予算
- フリーページ——すこやかスポット薬学講座No.9
「くすりの効き方よもやま話～くすりの体内での動き、
体内動態の観点から～」

表紙写真：ふれあい看護体験（2018.5.11 撮影、関連記事P8）

薬学部長就任のご挨拶

三部 篤

(病態薬理学講座薬剤治療学分野 教授)



この度、平成30年4月1日付けで岩手医科大学薬学部長を拝命いたしました。薬学部では、ここ数年の薬剤師国家試験の難化に伴う合格率低迷をきっかけとして、カリキュラム改編および薬剤師国家試験対策の強化に取り組んでいます。そのような時期の薬学部長の職には、いつにも増して非常に重い責任がありますが、岩手医科大学薬学部にて在籍している全学生の学力向上ならびに薬剤師国家試験合格に向けて、誠心誠意尽力いたす所存でございますので、宜しくお願いいたします。

6年制薬学部における使命は、薬学教育と医学薬学研究を通して、優秀な医療人たる薬剤師を育成することだと思います。日本は現在、少子高齢化そして人口減少社会を迎えています。そういった社会情勢の中では、地域住民の健康維持に対する薬剤師の役割は大きいです。また、地域住民が期待する、先進でありながら温もりのある医療を円滑に進めて行くには、医療に従事する多職種による「チーム医療」を実践していくことが必要であることは言うまでもありません。そのため、現在の薬剤師には専門知識を持った上で、高いコミュニケーション能力が要求されています。このコミュニケーション能力の育成には、6年制薬学教育カリキュラムの中でしっかりと指導する必要があると考えています。そのため、現在、岩手医科大学薬学部のカリキュラムでは、低学年の内から実際の臨床現場を体

験できる体験型実習などの機会を数多く設けています。これら数多くの参加型の学習機会を経て、実際の医療現場で必要となるコミュニケーション能力の高い次世代の薬剤師を育成していきたいと考えております。

薬剤師国家試験対策として、早期から薬剤師国家試験を意識させる取り組みを行っております。4年次には、具体的な症例・処方問題に取り組みながら、4年間で身に付けた各薬学科目の知識をどのように活用するかをトレーニングする「総合薬物治療演習」などを行い、5年次の実務実習を行う上で、どの知識が重要かを理解させます。その上で、6年次の早々から薬剤師国家試験を意識した講義を行っております。

また入学定員の見直しも喫緊の大きな課題です。今年、薬学部の入学者は定員を大きく割り込みました。その上、2018年問題とされているように、2018年から18歳人口の減少に伴って大学への進学者が減少し始めると予想されています。この状況に対処するため、広報活動および入試システムを含めて対応しているところです。

このように現在の薬学部には数多くの課題があり、これらを克服するために、薬学部全教員一丸となって立ち向かおうとしています。薬学部の改革に向けて、岩手医科大学の教職員の皆様のご支援を賜りますよう、何卒お願い申し上げます。

病院長就任のご挨拶

小笠原 邦昭

(脳神経外科学講座 教授)



平成30年4月1日付で岩手医科大学附属病院長職を拝命しました、脳神経外科講座の小笠原邦昭と申します。皆様、どうぞ宜しくお願い申し上げます。

私は、本学に奉職して20年、脳神経外科講座教授に就任し10年が経ちました。この節目に附属病院長を拝命したことに天命を感じております。これまで、医学部、特に学生教育の仕事が中心であり、附属病院に関する仕事にはほとんど携わっておりません。附属病院長就任前には、私本人はもちろんのこと、皆様も不安に思ったことと拝察します。また、今現在も、そのように感じられていることと思います。しかしながら、私自身は4月に就任して、多くのことを学ばせていただいております。徐々に問題点とやらなければならないことが判りつつあります。

現下の最大の課題は、今後を受審予定の「病院機能評価」と来年9月に迫った「矢巾本院移転と内丸メディカルセンターの運用」です。前者に関しましては、矢巾本院移転後に、運営が安定し、十分な準備期間を経て受審したいところです。しかしながら、昨今の大学病院の医療安全に関する重大事案に鑑み、国は「病院機能評価」の認定を特定機能病院の承認要件とする方針です。従いまして、本学附属病院はできるだけ早い時期に「病院機能評価」を受審しなければなりません。

現在、副院長である整形外科学講座教授の

土井田先生を中心に「病院機能評価」に合格するための多くのプロジェクトが進行中ですが、建物のみならず既存の制度・規則や組織体制に疲労があることが判明しております。そこで、この「病院機能評価」を利用して、附属病院の機能を改善し、将来の世代に胸を張って引き継げる病院に生まれ変わりたいと思います。これは、「病院機能評価」の本来の目的でもあります。そのためには、「聖域なき改革」が必要です。皆様におかれましては、既得権を棄て、将来の附属病院のために協力していただくことを切に希望します。

もう一つの「矢巾本院移転と内丸メディカルセンターの運用」は、前述の「病院機能評価」とリンクしています。移転後の附属病院の運用の基本は、「矢巾本院は専門治療」、「内丸メディカルセンターは広く迅速な医療」となります。矢巾と内丸という離れた2つの場所で、如何に連携した医療を行うかがポイントとなります。これも、これまでの古い考え方、既得権を棄てて、取り組まなければなりません。

私がこれら2つを行う上で大切にしていることは、「現場主義」と「情報開示」です。徹底した「現場主義」と「情報開示」で、この大事に取り組みたいと思っております。

岩手医科大学の職員の皆様方のご支援とご協力を、よろしくお願い申し上げます。

新入職員の声

～研修を通じて学んだこと～



企画調整課 事務員
上山 愛寿花

新入職員研修では、普段なかなかお話を聞くことができない、学長、事務局長、附属病院長からのお話を聞かせて頂き、岩手医科大学で働けることの素晴らしさを、改めて実感しました。また、実際に、岩手医大で働いている職員の方々や、外部の講師の方からのお話を聞き、岩手医大の一職員として働くことの責任の重さを実感しました。

研修の中では、社会人としての考え方や、基本動作、仕事の進め方についても触れ、身の引き締まる思いがしました。学生のうちは、人間関係や時間も、自分の自由に使うことができ、重い責任を負う場面もほとんどありませんでした。しかし、社会人は学生と違い、仕事に合わせた時間の使い方や、幅広い年代の方とコミュニケーションを築く力が必要となります。また、自分のミスが、個人の問題だけではなく、組織全体の問題へとつながり、仕事に対して強い責任感を持つことが大切であると学びました。これから岩手医大の職員として働く上で、社会人としてのマナーに気を付けることはもちろん、組織の一員としての自覚や責任をもち、仕事に望んでいきたいと思えます。今回の研修を通して、社会人として働く心構えを身につけることができ、とても勉強になりました。まだまだ、不安やプレッシャーを感じることも多くありますが、今回の研修で学んだことを生かし、周りから信頼される社会人になれるように努力していきたいです。



薬剤部 薬剤師
伊藤 夏雅奈

私は、大学1年時からの夢であった岩手医科大学附属病院の薬剤師として働くことが出来てとても誇りに感じています。

3日間の研修では、多職種の同期と共に大学沿革から矢巾移転計画、医療安全などを学びました。特に、祖父江学長の講話では、今後目指す自分の医療人像について考える機会となりました。祖父江学長の「たった一人、一部のレベルの低さは全体に影響する」という言葉が胸に響きました。社会人として責任を持ち、行動していかなければならないと改めて感じました。また、私は薬剤師として患者さんが痛みや不安を少しでも感じずに過ごせるよう、気持ちに寄り添う存在になりたいと思っています。そのためには常に思いやりの心を持ち、悩みを包み込んで希望を与えることができるような医療人を目指していかなければならないと考えています。

また、医療安全についての講義も印象に残っています。いくつかの病院の医療事故の詳細などを知ること、一瞬で生じたミスが人の命に影響してしまうという怖さを感じました。しかし、ミスの原因を知ること、気をつけなくてはいけないポイントなどを考えることが出来ました。医療事故の怖さを知ると気持ちが後ろ向きになってしまいそうになりますが、病院長の小笠原先生が仰っていたように、判る、判らないをはっきりさせること、間違いや違うことの理由を考えることがミスへ繋がらないためにも必要なことだと考えます。今回の気持ちを忘れずにこれから頑張っていきたいです。



中央放射線部 診療放射線技師
渡辺 隼杜

私は3日間の新人研修を終えて、言葉遣いやコミュニケーションの取り方や安全対策など社会人として岩手医科大学で働く自覚をより一層持つことが出来ました。

外部講師の方には言葉遣いやコミュニケーションの方法などを教えていただきました。研修を通じ分かったことを再確認することが出来ました。また、誤って覚えていた言葉遣いもあり、正しい言葉遣いを覚えて今後所属部署の方々とのコミュニケーションを積極的に取りたいと思いました。

様々な研修の中で私が一番印象に残っているのは祖父江学長のお話でした。岩手医科大学は大変歴史があり、角膜移植や救急医療の草分け的存在で、初の人工肺サーファクタントによる治療を成功させるなど常に時代の先端技術を取り入れた医療を提供していることが分かりました。また、矢巾キャンパスへの附属病院移転事業のお話では、コンセプトが「患者さんにやさしい病院」であると教えていただき、私も高度な医療を提供することはもちろん、患者さんにやさしい医療人を目指したいと強く思いました。

3日間の研修を受け、高レベルなチーム医療の一員として多くの知識や技術を所属部署の方々から吸収し、実践することで岩手医科大学に貢献できるような人材になりたいと感じました。



歯科衛生部 歯科衛生士
富崎 こもも

新人職員研修にて様々な講義を受けました。まず岩手医科大学は、『医学・歯学・薬学・看護』の教育に力を入れていること、多職種と連携してチーム医療を行い、最先端技術への取り組みを行っているということを知ることが出来ました。このように多職種と連携することで患者さんにより良い医療を提供できるのだと思いました。また、岩手医科大学は長い歴史ある大学であるため、今まで築き上げてきたものを壊さないためにも、職員の一員であるという自覚をしっかりと持つことが非常に大切であると感じました。誠の精神に基づく誠の医療の実践という理念を忘れないようにしていきたいです。

新人コミュニケーション研修では、学生と社会人との違いを学びました。仕事をしていくうえで大切なこととして、安定した出勤、仕事の正確さ、報告、連絡、相談、職場でのルールやマナーを守ること等が必要です。これらのことをしっかりと頭に入れて行動していきたいです。社会人としての考え方や第一印象の重要性、心構え、あいさつのポイント、仕事の進め方等についても理解を深められました。また、医療安全研修ではインシデント・アクシデント報告は医療行為の1つであるということを知りました。医療事故を起こさないためにも、このような対策はとても大切であると再認識することが出来ました。

今回の研修では、社会人として、また医療従事者として重要な知識等様々な視点から多くの事を学ぶ事が出来ました。これから仕事をしていくうえでしっかりと生かしていきたいです。

4月2日から6日にかけて行われた新入職員オリエンテーションの感想をご紹介します。
なお、研修の日程・内容は職種により一部異なります。



東8階 看護師
平坂 彩佳

新入職員研修において社会人としてのマナーなどについて学び、自分は社会人であるという自覚とともに今後岩手医科大学の一職員としての自覚を持ち、日々の業務に励んでいきたいという思いを改めて考えることができました。

学長講話、病院長の講話を聞いて、岩手医科大学が歩んできた歴史について学び、長い歴史の中で岩手県、東北の医療の中核を担ってきたことを学びました。私も岩手医科大学の一職員となり、プロフェッショナルの仕事を患者さんに提供していく立場となるため、わからないことはわからないとはっきりと答えて先輩看護師から学びを得て、患者さんに安全で良質な医療を提供できるように努めたいと感じました。自分はどうのように考えたかという思考のプロセスをも大切にしたいと感じました。また、学生時代とは違い社会人になると様々な責任というものが出てくるとともに、自分の軽率な行動は病院全体の評価に影響し、病院勤務者だけでなく患者さんなど多くの方に迷惑をかけてしまうという自覚をもって行動していきたいです。そして、清潔感や見た目といった印象というものも大事にしていきたいと思いました。

来年の9月には、病院の移転という一大イベントも控えており、県民からの期待もより多く寄せられることが予想されます。岩手医科大学の良質なサービスに貢献できるような看護を行えるよう、看護してもらえてよかったと患者さんに思ってもらえるような看護を行えるよう、まずは1年間業務に臨みたいです。



中央臨床検査部 臨床検査技師
中山 恵理菜

学生生活を終え、ついに社会人となり、かなり緊張しながら辞令式に臨みました。辞令交付式の後、今年度入職の同期の方々とともに研修を受けました。

学長や事務局長、病院長の講話では、これから働くうえで重要なことを教えていただきました。まず、わからないことは何でも聞くことです。これはほかの方もよく仰ることですが、自分の考えを持ったうえで教えるを請うことと教えていただきました。また、失敗の原因を分析して次回の解決策を考えることです。「失敗よりも工夫のないことを恐れよ」という言葉にとっても感銘を受けました。また、社会人としての責任、医療人としての責任を負うことについて、自分が検査技師の職を目指した気持ちを改めて思い出しました。

これらの研修で、自分の行動が病院全体の評価に直結するというのを特に感じました。そのために社会人としての常識を持ち、患者さんへのサービスを常に考え、技術の向上のため地道な努力を怠らずに日々精進していきたいと思えます。また、医療安全のため、手指衛生も怠らないように心に留めます。

慣れない仕事、環境の中でこれから大変なことも多く出てくると思えますが、先輩方や同期の方々にアドバイスや協力をいただき、乗り越えていきたいです。



臨床工学部 臨床工学技士
大川 達也

私にとって今回の新入職員研修は、岩手医科大学の一人の医療従事者として、また臨床工学技士としての在り方について考える充実した機会となりました。

研修や講話から、医療人である前に一人の社会人としてのマナーや規則、コミュニケーションの重要性を学ぶことができました。また、長い歴史を持つ岩手医科大学を知り、当院で働く一人の医療人として誇りと責任を持ち業務に取り組んでいく自覚が強く芽生えました。

私が目標とする医療人は、自分の持っているもので患者さんに精一杯の形で安全かつ良質な医療が提供できるように、地道な努力を惜しまず常に初心を忘れずに取り組む姿勢を持ち併せた医療人です。そのために誠実で謙虚な姿勢を持ち、高いレベルを目指しベースアップ・スキルアップと自己研鑽を図りたいと私は考えます。

当院の臨床工学技士として、他のスタッフの方が安全に快適に医療機器を使用できるように日々の機器管理を徹底し、また医療機器を通じ他のスタッフの方と共に高いレベルのチーム医療を目指していきたいです。そして多くの専門的な知識を持つ医療機器のプロフェッショナルとして活躍し、当院に貢献していきたいと私は考えます。



リハビリテーション部 作業療法士
井戸畑 翔太

新入職員研修を受けて、改めて岩手医科大学に入職したことを実感しました。最も印象に残っているのは祖父江学長の講話にあった「チーム医療の落とし穴」です。チームは全員が高いレベルにある必要があり、一部のレベルの低さが全体のレベルを下げるというものでした。我々の職種は一人の患者さんに対して医師や看護師などの他職種と連携して関わっていかなくてはなりません。手術が成功しても適切なりハビリテーションを提供できないと良好な結果は得られないため、先輩方の技術をしっかり学びレベルの高いリハビリテーションを提供できるように取り組んでいきたいと思えます。

パソコン等のセキュリティ対策についても詳しく説明していただいたため、不正利用対策やコンピュータウイルス対策などを常に心掛けながら業務を行っていきたいです。

また一人のミスが病院全体の評価を落とす可能性もあるため、自分が岩手医科大学の職員である自覚をしっかりと持ち、節度ある行動を心がけて大学や患者さんからの信頼を得られるように日々の業務に取り組んでいきたいと思えます。

学校法人岩手医科大学

平成30年度予算

1. 予算編成にあたって

平成30年度は、創立120周年記念事業、特に建設中の矢巾新附属病院の他、店舗棟や保育園など、周辺附属施設の整備の事業資金の調達を最優先とし、加えて内丸メディカルセンターなどの整備に向けた事業資金の積立計画を着実に実施する必要があります。

一方、平成30年4月の診療報酬の改定や平成31年10月に予定されている消費税の増税などが本学の経営に大きな影響を及ぼすことが予想されています。

この様な厳しい環境下において、大学経営の安定には入学定員充足による学生生徒納付金の確保が不可欠です。また、本学の事業活動収入は約7割を医療収入が占めていることから、財政の持続的安定の

ためには、一層の患者確保に努め、医療収入の増収対策を推進するとともにコスト削減を図り、多額の資金を要する総合移転整備事業遂行のための資金の確保に努めます。

これらのことから、平成30年度予算は、矢巾新附属病院の建設費用を中心とし、収入については、医療収入などの増収に努め、補助金や研究費などの外部資金の積極的な獲得を図ります。また、支出については社会的要請に応じた教育・研究・診療を円滑に遂行できるよう配慮のうえ可能な限り圧縮した予算としました。

2. 主な予算項目

平成30年度事業活動収支予算(項目1～6)、資金収支予算(項目7～9)の主な項目について説明します。

収入予算は、学生生徒等納付金85億9,073万円(事業活動収入に占める割合15.0%)、医療収入380億6,655万円(同66.6%)、補助金62億562万円(同10.8%)を計上しました。これら3項目で事業活動収入の92.4%を占めています。その他の収入は43億3,520万円(同7.6%)を計上し、事業活動収入予算総額は571億9,810万円を計上しました。

支出予算では、人件費223億7,358万円(事業活動支出に占める割合43.1%)、医療経費(医薬品費、医療材料費、給食材料費)159億8,795万円(同30.8%)、教育研究用等の経費など135億3,657万円(同26.1%)を計上し、事業活動支出予算総額は518億9,810万円を計上しました。

以上に加えて、予備費2億円の支出と基本金△80億円の組入を計上したことにより、平成30年度は△29億円の支出超過(赤字)を計上した予算編成となりました。

本学の財政は、事業活動収入の約66.6%を医療収入に委ねており、支出においては、人件費と医療経費で約73.9%を占めています。財政基盤の確立には引き続き医療収入の増収と医療経費の適正・効率化を念頭に入れ、教職員一人ひとりが経費全般の節減に努めていかなければなりません。

1. 学生生徒等納付金

学生生徒等納付金は、授業料、入学金、実験実習費、教育充実費、施設整備費からなっており、医学部47億3,577万円、歯学部16億9,021万円、薬学部16億3,728万円、看護学部2億8,650万円、医療専門学校1億1,730万円、岩手看護短期大学1億2,367万円、合計85億9,073万円を計上しました。

2. 医療収入

附属病院(医科)、歯科医療センター、循環器医療センター、花巻温泉病院、PET・リニアック先端医療センターを合計した医療収入予算は、入院収入267億2,760万円、外来収入110億4,216万円、その他の医療収入2億9,679万円、合計380億6,655万円を計上しました。

3. 補助金

教育活動収入として、私立大学経常費補助金18億4,184万円、その他の国庫補助金5億6,971万円、また、地方公共団体補助金は9億7,618万円を計上し、合計33億8,773万円を計上しました。

この他、特別収入として、施設設備補助金28億1,789万円を計上しました。

4. 人件費

給与・諸手当・所定福利費などの人件費は、社会情勢を考慮し定期昇給分0.46%を見込んで209億4,939万円、また、退職金関係では13億6,527万円を計上して、その他を合わせ人件費は合計223億7,358万円を計上しました。

5.医療経費

附属病院全体の医療経費として、医薬品費83億7,464万円(医療経費率22.0%)、医療材料費73億4,684万円(同19.3%)、給食材料費2億6,647万円(同0.7%)を計上し、医療経費は合計159億8,795万円(同42.0%)を計上しました。

6.研究費

医学部・薬学部の講座研究費は、講座等の組織改編に伴い基本額を調整し配分額の変更を行いました。歯学部・看護学部・教養教育センターの講座研究費及び個人研究費にあたる特別研究費は、前年度と同額を計上しました。

7.借入金等収入

附属病院移転建設工事に係る支払資金として、市中金融機関からの借入金40億円を計上しました。

8.施設関係支出

建物・建物付属設備等は、薬物毒物検査室移設工事等3億円を計上しました。

建物仮勘定は、病院移転整備事業として、附属病院移転建設工事220億5,753万円、設計監理等2億3,767万円、合計222億9,520万円を計上しました。

9.設備関係支出

機器備品などの購入予算として、19億2,400万円を計上しました。

平成30年度 事業活動収支予算書

(単位：千円)

区分	収入の部		支出の部	
	科目	金額	科目	金額
教育活動収支	学生生徒等納付金	8,590,730	人件費	22,373,580
	手数料	269,240	医療経費	15,987,950
	医療収入	38,066,550	消耗品費	815,000
	寄付金	1,203,350	光熱水費	1,182,180
	経常費等補助金	3,387,730	旅費	233,820
	付随事業収入	1,616,590	修繕費	522,990
	雑収入	981,730	業務委託費	3,817,220
			減価償却額	3,546,950
		その他の諸経費等	2,431,610	
	教育活動収入計	54,115,920	教育活動支出計	50,911,300
教育活動外収支	受取利息配当金	10,980		
	教育活動外収入計	10,980	教育活動外支出計	0
特別収支	その他の特別収入	3,071,200	資産処分差額	169,800
	特別収入計	3,071,200	その他の特別支出	817,000
	事業活動収入合計	57,198,100	特別支出計	986,800
		事業活動支出合計	51,898,100	
	予備費		200,000	
	基本金組入前当年度収支差額		5,100,000	
	基本金組入額合計		△8,000,000	
	当年度収支差額		△2,900,000	

平成30年度 資金収支予算書

(単位：千円)

収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
学生生徒等納付金収入	8,590,730	人件費支出	22,520,300
手数料収入	269,240	諸経費支出	24,975,890
医療収入	38,066,550	施設関係支出	22,595,200
寄付金収入	1,420,950	設備関係支出	1,939,020
補助金収入	6,205,620	資産運用支出	2,003,000
付随事業収入	1,616,590	その他の支出	4,270,840
受取利息・配当金収入	10,980	予備費	500,000
雑収入	981,730	資金支出調整勘定	△3,403,800
借入金等収入	4,000,000	次年度繰越支払資金	18,252,770
前受金収入	1,577,300		
その他の収入	23,368,430		
資金収入調整勘定	△12,454,900		
前年度繰越支払資金	20,000,000		
収入の部合計	93,653,220	支出の部合計	93,653,220

※詳細な説明・確認等を希望される方は、財務部経理課(内線:3214・3215)まで照会願います。

総合安全対策講習会ならびに医療安全表彰・院内感染対策功労部署表彰が開催されました

平成30年度総合安全対策講習会が5月8日(火)から13回(録画映像による開催含む)にわたり、岩手医科大学講堂で行われ、教職員延べ2,209名が参加しました。講習会では、肥田医療安全管理部長、櫻井感染症対策室長、医薬品安全管理責任者である佐藤副薬剤師長、久保田主任臨床工学技士による講演が行われ、院内における総合的な医療安全対策や院内感染対策に関する理解を深めました。



また、平成29年度医療安全表彰者(部署)として2名と2部署に、院内感染対策功労部署として2部署に対し、肥田医療安全管理部長から表彰状が授与されました。



〈平成29年度表彰者(部署)〉

(写真左から)

医療安全表彰者(部署)

- 電子カルテ・書類・マニュアル改訂部会 高田 亮 部会長
- 中央放射線部 平田 洋介 主任診療放射線技師
- 西5階A病棟(代表 古川 徳子 看護師長)
- 麻酔科(代表 鈴木 健二 教授)

院内感染対策功労部署

- 中3階病棟(代表 鳥居 明美 看護師長)
- 高度救命救急センター(代表 高橋 弘江 看護師長)

小児科病棟で「こいのぼり会」が行われました

5月10日(木)、本学附属病院西5階A病棟(小児科)において、こいのぼり会が行われました。この会は、入院中の子どもたちやその保護者が入院生活を楽しんでもらえるようにと、こどもの日にちなんで毎年5月に病棟スタッフが開催しています。

会では、入院中の盛岡青松支援学校の生徒による鉄琴・卓上ベル演奏や当院で実習中の看護専門学生によるシルエットクイズの他、4月に西5階A病棟に配属された看護師によるじゃんけんダンスパフォーマンスが披露され、楽しいひとときを過ごしました。



ふれあい看護体験が行われました

5月11日(金)、本学附属病院において、ふれあい看護体験が行われました。今年は県内の高校3年生64名が参加し、実際のユニフォームに袖を通すと緊張した面持ちで体験に臨みました。

生徒たちは、それぞれの体験場所となる病棟で患者さんの搬送や誘導、清潔面の援助、患者さんとのコミュニケーション、手術室の見学などを行いました。

体験終了後、参加した高校生からは「看護師への憧れが強くなった」、「患者さんが自分でできることが増えるようにサポートすることも看護なのだ実感しました」などの感想が寄せられました。



薬学部2年生の講義「早期臨床体験～被災地と災害時の薬剤師の役割を学ぶ～」が行われました

5月14日(月)から18日(金)にかけて、薬学部2年生の必修科目「早期臨床体験～被災地と災害時の薬剤師の役割を学ぶ～」が行われました。この授業は臨床に関する様々な事象を体験し、薬剤師として自らが目指す目標を考えることを目的とした授業で、今年度から開講されました。

初日は矢巾キャンパスで避難所運営ゲームや災害時のDVD視聴などの事前学習を行い、2日目からは、3つのグループに分かれて、宮古及び田老地区、大槌及び釜石地区、大船渡及び陸前高田地区のいずれかを訪問し、被災地の薬局や復興状況を見学しました。最終日は矢巾キャンパスにおいて、各自被災地で学んだことをまとめ、プレゼンテーションを行いました。

学生たちは各地の行政担当者や薬剤師から、東日本大震災での対応や現在の状況についての話を聞き、発災時や被災後の地域における薬剤師の役割について学びを深めました。



宮古薬剤師会の講師による講義



大槌町の復興状況を見学する学生たち

医療専門学校歯科衛生学科のオープンキャンパスが行われました

平成30年度第1回オープンキャンパスが5月27日(日)に、第2回オープンキャンパスが6月23日(土)に医療専門学校上ノ橋校舎で開催され、高校生と保護者など約30名が参加しました。

当日は、歯科衛生士の職業紹介や体験実習、在学生とのフリートークなど多くの企画が用意され、好評を博しました。



今後のオープンキャンパスの開催予定

第3回	7月28日(土)	第6回	9月22日(土)
第4回	8月4日(土)	第7回	10月6日(土)
第5回	8月18日(土)	第8回	12月1日(土)

※いずれも10時から12時

附属病院外来コンサートが行われました

5月26日(土)、本学附属病院外来棟1階待合ロビーにおいて、岩手県民オーケストラによるコンサートが開催され、入院患者さんやご家族、教職員ら約100名が迫力ある演奏を楽しみました。

このコンサートは、入院中の患者さんへの励ましと癒しを提供することを目的として、春と冬の年2回開催されています。約40名の楽団は、「カルメン 前奏曲」、「南部外山節」などクラシック音楽から民謡まで多彩なジャンルから8曲の演奏を披露しました。



永年勤続者表彰式が行われました

5月15日（火）、岩手医科大学講堂にて、平成30年度の永年勤続者表彰式が行われました。本年度の表彰者は、勤続30年の方が25名（写真上段）、勤続20年の方が60名（写真下段・9頁上段）でした。式典では、小川理事長より勤続30年代表の臨床遺伝学科福島明宗教授と勤続20年代表の三浦一穂看護師長へ表彰状と記念品が授与され、式辞が述べられました。これを受けて久保田桜副看護部長（勤続30年）が謝辞を述べ、式典終了後に壇上にて記念撮影を行いました。その後、創立60周年記念館8階に会場を移して祝賀パーティーが催され、勤続のお祝いをするとともに今後益々のご活躍を祈念し、盛会裡に終了となりました。



勤続 30年

小田 育子	佐々木 章	高澤 るみ子	中田 紀恵	米澤 裕司
相澤 文恵	鎌田 久美	千葉 和江	福島 明宗	計 25名
朝岡 ゆりこ	久保田 桜	千葉 真由子	松岡 章子	(所属・敬称略)
内田 トシ子	小泉 智香子	寺田 歆子	南川 絹子	
小笠原 珠美	昆 由美子	主濱 真由美	目時 毅	



勤続 20年

關川 加奈子	立花 知恵子	長岡 友美	西田 史己	三浦 一穂	計 29名
菅原 毅	高橋 加奈子	長澤 美希子	肥田野 靖史	三浦 大輔	(所属・敬称略)
菅原 陽子	高橋 咲子	中村 英恵	平野 良子	宮崎 里美	
杉下 佳子	高橋 夏美	中村 真由美	藤井 祐輔	宮守 優	
杉村 淳	武田 航太	辻本 みどり	藤原 恵真	吉田 彩子	



勤続 20 年

石田 雪江	葛西 正子	北田 由紀子	小館 伸行	佐々木 寛人	下屋敷 久子
浅沼 裕美	稲垣 昇	金子 由香利	近藤 昭恵	佐々木 恵	菅井 有
浅沼 嘉輝	上野 修子	川野 由美子	才川 幸恵	佐藤 聡子	計 31 名
穴澤 典子	小笠原 邦昭	菊地 健	齋野 朝幸	佐藤 衛	(所属・敬称略)
阿部 美和子	小野家 佳子	菊地 美幸	工藤 雅子	佐々木 信英	佐藤 祐子

理事会報告 (4月定例—4月23日開催)

1. 教員の人事について

医学部 臨床検査医学講座 特任教授
鈴木 啓二郎(前 同講座 准教授)

医学部 内科学講座消化器内科肝臓分野 准教授
宮坂 昭生(前 同分野 特任准教授)
(発令年月日 平成30年5月1日付)

看護学部 地域包括ケア講座 准教授
岩淵 光子(現 岩手県立大学看護学部看護学科地域看護学 講師)
(発令年月日 平成31年4月1日付(予定))

医学部 内科学講座消化器内科肝臓分野 特任准教授
黒田 英克(前 同分野 講師)
(発令年月日 平成30年5月1日付)

2. 医学部副学部長の選任について

医学部副学部長 佐々木 真理(新任)
(任期 平成30年5月1日から平成31年3月31日)

3. 附属病院副院長の選任について

大学附属病院副院長 肥田 圭介(新任)
(任期 平成30年5月1日から平成31年3月31日)

4. 学則の一部改正について



医学部の吉直 大佑さん、曾我 仁美さん、高橋 啓悟さんのグループが日本医学教育学会主催の医学生シムリンピックさっぽろ2017に参加し、心肺蘇生部門で第3位に入賞しました

平成29年8月20日（日）札幌で開催された日本医学教育学会の医学生のシムリンピックに、本学5年生が初めて参加しました。日本医学教育学会では、シミュレーション教育の理解と普及を図ること、および、医学生の臨床能力を客観的に評価するシステムを確立することを目的として、4回目となるMedical Simulation Olympic Sapporo 2017（略称：シムリンピックさっぽろ2017）を開催しました。この企画は、全国から各大学の医学生が参加して、臨床実習での学習の成果を3人1チームで力試しするイベントです。このイベントに、今回本学から5年生3名（現6年生・吉直大佑さん、曾我仁美さん、高橋啓悟さん）が参加して、見事心肺蘇生部門で第3位に入賞いたしました。各科の先生方からのご支援をいただいたおかげで、初参加ながら彼らも競技を全うすることができました。全国のレベルを経験した彼らには、今回の経験は極めて有意義であったと思われます。今後も精進してくれるものと期待しております。ご支援いただきました先生方には、この場をお借りして御礼申し上げます。

（文責：医学教育学講座 地域医療学分野／内科学講座 循環器内科分野 伊藤 智範）

医学部5年の外田 望さんが第115回 日本内科学会総会「医学生・研修医の日本内科学会ことはじめ 2018京都」において、内科学会総会優秀演題賞を受賞しました（本学医学部学生3年連続5度目）

平成30年4月14日に、春の京都で開催された第115回日本内科学会総会「医学生・研修医の日本内科学会ことはじめ 2018京都」で、本学医学部5年生の外田望さんの研究テーマが、優秀演題賞を受賞しました。このセッションは、今年で6回目になり、年々登録演題数が増加し、今回は当初の倍に当たる全国から466演題の発表がありました。応募者のほとんどは研修医で、これまで同様、学生はわずかでありました。

抄録段階で口述発表に選定された一部演題も含めて、すべてがポスター形式の発表でした。外田さんのセッションはすべて研修医が演者で、6つの演題でセッションが組まれておりました。外田さんは、研修医にも劣らない明瞭な声で発表し、質疑応答でも、研修医を凌駕するような応答で座長からも絶賛されていました。発表後の会場からの拍手は、発表演題中もっとも大きく、学生がこの仕事を行ったことに対する大きな賛辞をいただきました。発表質疑応答の後、座長からの採点を受けた結果、その中で1位に選ばれて、最後の表彰式で優秀演題に選出いただきました。しかも、優秀演題受賞者数106名中、学生はわずか17名でした。

彼の研究テーマは、昨年医学部4年生で実施したラボ配属で行った研究内容です。演題は、「岩手県内多施設共同によるたこつば症候群長期調査－東日本大震災前後のたこつば症候群の発症動向－」です。東日本大震災後にストレスが原因で発症するとされるたこつば症候群の発症動向を長期的に調査した研究で、震災後2年間に著増して、その後発生頻度は低下したものの、発災前よりも持続的に増加していることを初めて明らかにした研究結果です。

昨年引き続き、今回3年連続5度目の本学学生の受賞により、全国の各大学に再びきわめて強いインパクトを与えたことは間違いありません。また、今回学会発表で受賞した彼の経験は、必ず将来の大きな糧になるでしょう。

最後になりましたが、演題発表にあたり、ご協力いただきましたご父兄のみなさま、秀逸なポスター作製にご協力いただいた医用画像情報センターのスタッフの方々、またさまざまなご助言ならびに多大なご支援をいただきました岩手県立病院の参加施設責任医師・内科学講座（循環器内科分野）森野禎浩教授・秘書の方々にも謝意を申し上げます。

（文責：医学教育学講座 地域医療学分野／内科学講座 循環器内科分野 伊藤 智範）



（左端：外田さん）



小児科学講座の浅見 麻耶 専門研修医が 平成29年度小児医学研究振興財団アワードを受賞しました

岩手医科大学小児科学講座の浅見麻耶先生は、2018年4月20日から福岡市で開催された第121回日本小児科学会学術集会において、小児医学研究振興財団から平成29年度小児医学研究振興財団アワードを授与されました。この賞は日本小児科学会機関紙の和文誌と欧文誌に掲載された論文の各1編に優秀論文として授与されるもので、選考は各機関誌を発行する学会から優秀論文として推薦を受け、小児医学研究振興財団の選考委員会が行い、平成29年度はPediatrics International第59巻中、対象となる24編の中から選ばれたものです。

受賞論文は「Intellectual outcomes of extremely preterm infants at school age」(Pediatrics International 2017; 59(5): 570-577)で、当院新生児集中治療室が開設された1982年から2005年までに入院した超早産児(在胎28週未満)542人の短期予後と6歳時知的障害のリスク因子を解析したもので、当施設のコホート研究において、修正36週に酸素を必要とする慢性肺疾患や無呼吸発作、脳室内出血の減少と、経静脈栄養を含む栄養の早期開始が、超早産児の知的予後を改善する上で重要であることを示したものです。



(公益財団法人小児医学研究振興財団、柳沢正義理事長と撮影)

(文責：小児科学講座 亀井 淳)

編集委員コーナー No.30

佐々木 忠司
presents

美味しいヨーグルトは健康の一助になる？ ～岩泉ヨーグルト～

健康志向が社会的にも浸透して、「健康寿命を延ばすこと」が多くの新聞やネットでとりあげられています。健康のためには適度な運動、身体にいい食生活、ストレスを少なくするなどがあげられます。「健康でありたい」は私たちにとっても大切なポイントです。

そこで今号は私自身が食生活で気を付けて、食しているものを紹介します。牛乳などの乳製品は身体に良いのは周知のことです。では一日何回食していますか？私は朝食と夕食は必ずヨーグルトを食べています。ヨーグルトは栄養補助食品とは異なります。高い栄養価と乳酸菌という生き物を摂り入れ、その効能は腸内の「善玉菌」を増やし、腸内環境を整えることで栄養の吸収や免疫力の向上が期待されます。調べてみると腸内細菌は100種類以上あり、有名なものではカスピ海ヨーグルトのクレモリス菌やビフィズス菌類、LG21乳酸菌などがあるそうです。

私のお気に入りには「岩泉ヨーグルト」です。カップの市販品に比べ少々割高ですが、岩泉ヨーグルトのもっちりした食感他のヨーグルトでは味わうことができません。県内で牛乳がおいしいとされる田野畑や湯沢などのヨーグルトも試しましたが、モンドセレクション2度の受賞や多くのホテルの朝食に提供されているのもおいしさの証拠と納得です。

ヨーグルトの好き嫌いにかかわらず健康のために食べてみてはいかがでしょうか？病みつきになるかも。



矢巾新病院敷地内保育園 平成31年2月よりプレオープン！(11月頃より募集開始予定)



■現在想定している運営概要

定員	101名(内訳)0歳:18名 1歳:21名 2歳:21名 3歳:20名 4・5歳:21名
休園日	日曜、祝日、第2・3・5土曜、年末年始(12/30～1/3)
保育時間	平日(月～金) 7:30～18:00(延長 6:30～7:30、18:00～20:30) 第1・4土曜 7:30～13:30(延長 18:00まで)
夜間・休日保育	勤務者のみ利用可能(事前予約制)
一時保育	保育園利用者及び登録者のみ利用可(別途料金徴収) ※主に土・日曜日に対応(出張や研修・セミナー参加時の対応)
病児保育	定員10名(保育園利用者及び登録者のみ利用可) ・対応時間 8:00～17:30 ・利用前の医療機関受診が必要 ・受入れ対象疾患等は今後検討予定

※詳しくは、人事職員課(内線3234)まで

シリーズ 職場めぐり

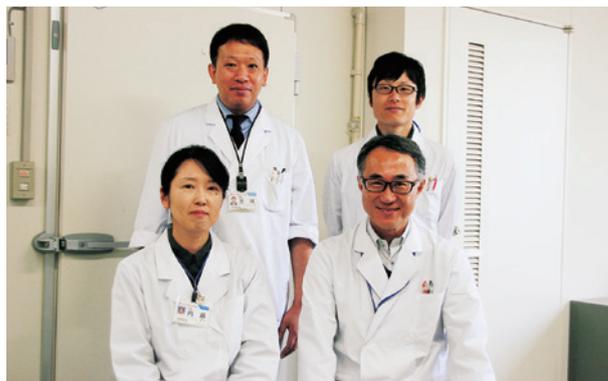
教養教育センター 生物学科

教養教育センター生物学科には、松政正俊教授、三枝聖講師、阿部博和助教に、今年度、岩手看護短期大学より内藤雪枝助教を迎え、4名が所属しています。医療職には生物学の基礎知識が必須です。本学科担当の4学部共通の選択科目では、生物未履修者や生物を苦手とする学生を対象とするものから、各学部の教員や学外の非常勤講師に御協力いただき、医療系の専門的な生物学に触れる機会を提供するものまで、学生の履修歴や修得度に対応しています。その他に、生物学実習や各学部専門科目への円滑な移行を支援する生物科目も担当しています。また、初年次の多職種連携教育にも参画しています。

本学科では、多様な生物種や広範な研究分野への視野と知識をもつことが、医療系の生物学教育にもプラスになると考えています。この理念に基づいて、研究面では医療に関

連した生物学分野にこだわらず、海産無脊椎動物の分類・生態に関する研究など、各自の課題に取り組んでいます。

(講師 三枝 聖)



看護部 (集中治療部)

集中治療部は、呼吸・循環・代謝などの重篤な状況にある患者を収容し、各診療科による治療および看護師による細やかな看護により患者の回復を図る部門です。患者さんが1日でも早く元の生活に戻れることを目指し、多職種との連携を強化したチーム医療への参画を推進しています。病棟では「集中治療看護におけるやさしさと確かな技をあわせもち、専門性を発揮した看護を実践する」を理念に掲げ日々取り組んでいます。クリティカルな状況にある患者さんやご家族の計り知れない苦痛に寄り添い、思いやりのあるケアを提供するために、看護倫理事例検討会でお互いの看護観を語り合うことを大切にしています。昨年度からは、身体抑制の必要性をアセスメントし、抑制をしない看護について検討し取り組んでいます。患者さんやご家族の気持ちを慮り、安心・安全・安楽な看護の提供を目指し、笑顔と気配りを

忘れず人を大切にするチーム力を高めていきたいと思えます。

(主任看護師 村上 咲織)



歯学部教務課

歯学部教務課は、事務員7名で構成されています。学籍・成績・カリキュラム等の管理、各種試験の実施、講義・実習のサポート、大学院歯学研究科の履修・学位等の管理、学生及び教員の支援全般、副学長・歯学部長の秘書業務、歯学部施設の管理等を担当しており、学生と教員が両キャンパスに分かれているため、矢巾キャンパス教務課(歯学部担当)と共に業務にあたっております。

現在、歯学部を取り巻く環境は、大学にとっても学生にとっても非常に厳しい状況が続いています。その中で歯学部は、平成23年度から歯学部改革プロジェクトを進行し、教育、臨床、研究と様々な取り組みを一丸となって行っており、歯学部教務課としてもその改革の一部を担っています。今後も、建学の精神である「誠の人間の育成」「厚生済民」を念頭に、一人でも多くの良い歯科医師を輩出し、大学の発

展に貢献できるよう、日々業務に取り組んでまいります。

(課長 近藤 敬)



岩手医科大学募金状況報告

【創立120周年記念事業募金】

岩手医科大学創立120周年記念事業募金に対し、特段のご理解とご支援を賜りました皆様方お一人おひとりに、厚く御礼申し上げます。誠にありがとうございました。

今後とも格別なるご支援・ご協力を賜りますよう衷心よりお願い申し上げます。

今回は第22回目の御芳名紹介です。(平成30年3月1日～平成30年4月30日)

※御芳名及び寄付金額は、広報を希望されない方は掲載しておりません。

●法人・団体等（18件）

<5,000,000>

医療法人社団 恵仁会 三愛病院（岩手県盛岡市）

<1,200,000>

圭陵会 三八支部（青森県八戸市）

<1,000,000>

株式会社 アイシーエス（岩手県盛岡市）

医療法人 悠隆会（宮城県延岡市）

<500,000>

青森三菱電機機器販売 株式会社（青森県青森市）

圭陵会 広島県支部（広島県広島市）

<200,000>

医療法人社団 青空会大町病院（福島県南相馬市）

<100,000>

株式会社 亀山鉄工所（宮城県仙台市）

医療法人 田村内科医院（福島県南相馬市）

ナカバヤシ 株式会社（大阪府大阪市）

<御芳名のみ掲載>

株式会社 エスアールエル（東京都新宿区）

医療法人 謙和会 荻野病院（岩手県盛岡市）

医療法人 敬仁会 遠藤医院（宮城県塩釜市）

株式会社 岡村製作所北東北支店（岩手県盛岡市）

丸木医科器械 株式会社（宮城県仙台市）

アズビル 株式会社 ビルシステムカンパニー東北支店（宮城県仙台市）

医療法人 明恵会（岩手県岩手郡）

カールツァイスメディテック 株式会社（東京都新宿区）

●個人（17件）

<1,000,000>

白井 淳一（他31）

<100,000>

東根 千万億（父母）

五島 頼子（父母）

<御芳名のみ掲載>

原田 一道（医24）

村田 千代（元教職員）

野坂 洋一郎（名誉教授）

梅原 寿太郎（父母）

赤松 順子（教職員）

星 かおる（父母）

齋藤 正信（医24）

前田 真希（医66）

小泉 清（父母）

小泉 彰子（父母）

小栗 千里（歯28）

佐藤 康満（父母）

五日市 よう（元教職員）

川崎 篤（父母）

区 分	申込件数	寄付金額（円）
圭 陵 会	717	480,125,089
在 学 生 ご 父 母	548	285,960,000
役 員 ・ 名 誉 教 授	74	96,020,000
教 職 員	180	25,752,000
一 般	77	29,410,000
法 人 ・ 団 体	255	775,393,000
合 計	1,851	1,692,660,089

（平成30年4月30日現在）

病院工事進捗状況

現在の矢巾新病院工事進捗は、9階床のコンクリート打設工事、10階の鉄骨工事を進めている状況です。いよいよ最上階まで工事が進む段階となっており、7月中旬には上棟し、10月には足場も撤去され病院の全景が確認できるようになる予定です。大学のホームページにて、工事の進捗状況を掲載しておりますので、是非ご覧ください。



<マルチメディア棟側から撮影>



<ドローンで南東側から撮影>

撮影日：平成30年6月6日

スポット薬学講座

医療薬科学講座薬物代謝動態学分野 教授 小澤 正吾

くすりの効き方よもやま話
～くすりの体内での動き、体内動態の観点から～

はじめに

年齢を重ねるに従い、複数の疾患に罹患し「医療人」といっても「患者」になるのは避け難い運命と思われま。複数の処方薬を服用することもやむをえません。薬剤師は、複数の処方薬の薬物相互作用による有害事象を念頭に置きます。俗にいう「薬のみあわせ」による不利益な事象です。平成26年、厚生労働省より「薬物相互作用ガイドライン」が出されました。開発中の治験薬と既存医薬品との薬物相互作用に係る指針を与えています。また、肝・腎機能低下患者での薬物相互作用や、薬物の肝代謝機能低下をきたす異型遺伝子を有するヒトでの薬物相互作用も含まれています。薬剤師が職能を発揮するに際して念頭に置かれるべき事項のうち、1. 肝・腎機能と薬の体内動態、2. 薬の効き方や副作用の現れ方と遺伝子多型（遺伝子の塩基配列の個人差）、に絞り、薬学部教員の立場から紹介したいと思います。

1. くすりの体内動態と薬物治療

1回2錠、1日2回服用、が用法用量である薬があるとし。1回4錠、1日2回服用を続けられ、通常の2倍量が循環血液に入ってしまいます。逆に、1回1錠で1日1回では、効果は低そうです。体内薬物量と副作用の発現は深く関係し、過量服用では、副作用リスクは高まります。薬の治験（臨床試験）の結果、よほど肝臓や腎臓が悪くなければ、例えば、服用後6時間でのんだ量の50%が主に肝臓で「代謝」され、効果も現れない、無害である形になる、などがわかっています。肝臓の「代謝」機能が悪い患者さんでは、薬がなかなか無害な形にならず、副作用リスクは高まります。

2. くすりの効き方は遺伝するのか

主に肝臓に存在し、薬の「代謝」を行う「薬物代謝酵素」の設計図となっている遺伝子の暗号の配列には平均して1000塩基に1ヶ所の頻度で異型がみられると言われてい。大多数の人とほんの少しだけ異なる薬物代謝酵素遺伝子の「異型アレル」で代謝機能が非常に低下する場合、その酵素で代謝される薬の服用の際、問題が起こることがあります。抗悪性腫瘍剤の「イリノテカン塩酸塩点滴静注液」の添付文書上に、遺伝子の塩基配列の個人差（遺伝子多型）と副作用発現率の関係が示されています。イリノテカンを効果も副作用も少ない形に変える薬物代謝酵素機能が低下する異型を有する患者は、異型をもたない人との比較で副作用発現率がどのくらい高いか、書かれています。

おわりに～正しい薬のみ方について～

結局、正しく薬をのむための注意は、薬ごとに異なります。薬の専門家たる薬剤師は、患者さんに守ってもらえるように注意点をお伝えするのが腕の見せ所、と思えます。正しくのんでいるはずなのに何か起きたときにはすぐに処方医や、薬を受け取った薬剤師に相談することも正しい薬のみ方に含まれると考えます。入院患者さんでしたら、患者さんに最適な薬物治療を提供するチーム医療が最重要事項、と思われ、本学の多職種連携教育はのちに大きな実を結ぶことを確信しています。

編集後記

表紙は「ふれあい看護体験」。看護学部では新入生を迎え、1期生は先輩となりました。注射や点滴等の専門的な技術の演習も始まり、一層真剣に取り組む姿が見られています。ふれあい看護体験が契機で、看護職への進路希望を固めたという声も聞かれます。この写真の誰かと、来春矢巾キャンパスで会えるかもしれない・・・と思うとわくわくしました。大学報を通して、皆様にも「わくわく」を届けることができれば嬉しく思います。

(編集委員 小坂 未来)

《岩手医科大学報編集委員》

小川 彰	佐藤真結美
影山 雄太	菊池 初子
松政 正俊	工藤 正樹
齋野 朝幸	熊谷 佑子
藤本 康之	安保 淳一
白石 博久	佐々木忠司
成田 欣弥	畠山 正充
遊田由希子	藤村 尚子
佐藤 仁	武藤千恵子
小坂 未来	高橋 慶
藤澤 美穂	

岩手医科大学報 第501号

発行年月日 平成30年6月30日

発行 学校法人岩手医科大学

編集委員長 小川 彰

編集 岩手医科大学報編集委員会

事務局 企画部 企画調整課

盛岡市内丸19-1

TEL. 019-651-5111 (内線7023)

FAX. 019-624-1231

E-mail: kikaku@j.wate-med.ac.jp

印刷 河北印刷株式会社

盛岡市本町通2-8-7

TEL. 019-623-4256

E-mail: office@kahoku-ipm.jp